

㊦総合系 2 (放射線科)

1. 研修目標

放射線医学の3本の柱となる放射線診断、核医学検査、放射線治療について、その基本を修得する。

2. 研修指導体制

各分野の専門医が指導医となり、それぞれの分野における指導責任を持つ。

3. 研修指導責任者 上谷 雅孝

4. 研修内容

- (1) 病棟：放射線科の入院患者2・3人を指導医とともに担当し、放射線治療やIVRの実際を学ぶ、担当する患者については、病棟回診及び病棟カンファレンスにおける症例呈示を行う（大学のみ）。
- (2) 外来：担当医の指導のもとに基本的な診療法、放射線治療やIVRの適応、放射線治療計画の実際について学ぶ（大学のみ）。
- (3) 画像診断：単純X線診断、各種造影検査、超音波、CT、MRI、核医学検査、血管造影の基本手技と読影について、指導医のもとで実際の症例を経験しながら学ぶ。また、放射線科内あるいは他科との各種カンファレンスに出席し、知識を深める。

5. 研修到達目標

5-1 行動目標

放射線診断、核医学検査、放射線治療の実際を経験し、それらの適応と基本的手技を学ぶ。

5-2 経験目標

(1) 放射線診断

①単純X線診断

単純X線写真でみられる解剖構造の理解と基本的疾患の診断ができる。

②特殊造影検査（胆嚢・胆道造影、尿路造影、消化管造影、血管造影）

これらの検査の特徴を知り、その適応を判断できる。

③CT、MRI、超音波検査

これらの検査の特徴を知り、その適応を判断できる。

基本的診断ができる。

(2) 核医学検査

①RI検査室への入退室、RIの取り扱いが正しくできる。

②各種核医学検査における使用核種と適応を知り、基本的診断ができる。

(3) 放射線治療

①基本的疾患における放射線治療の適応と方法を判断できる。

②治療に伴う副作用を理解し、治療患者の全身管理ができる。

③治療患者及び家族に対し、適切な説明ができる。